

D 19 乳幼児衣料の表示に関する諸問題と着衣実態についての研究（第4報）

—既製衣料サイズと身体寸法—

文化女大 三吉満智子 甲南女大 木岡悦子 椋山女学園大 ○中保淑子
静岡大 大村知子 東海学園女短大 辻 啓子 相模女大 永井房子
京都女大 福井弥生 大妻女大人間生科研 布施谷節子

目的 先のアンケート調査結果では、乳幼児服のサイズ表示は現行の身長単一表示よりも複数の組み合わせ表示を希望しており、母親は、子供の身体への適合性が高い衣服を選択できる情報提供を望んでいることがわかった。そこで、市販衣料寸法の実態を調べ、着用者寸法との関係を明らかにすることが必要であると考えた。まず、複数メーカーの既製衣料を購入し、衣服各部位の寸法およびパターン形状を採取して同一表示サイズにおける製品差を洗濯実験をも加えて検討した。さらに、乳児の身体計測を行い、衣服寸法とのかわりについて考察した。

方法 試料：ニットのトレーナー（綿100%）の上・下衣、布帛（綿100%）シャツブラウスと長ズボンの「80」「90」サイズ、メーカーはA、B、C、D、4社である。衣服の計測は上衣13、下衣17箇所ですべて3回の平均値をとった。被検者：月齢16～23ヶ月の保育園児男児9名、女児8名。身体計測は16項目である。洗濯実験：回数1～5回。1、3、5回目の洗濯後の衣服寸法を測定した。実験期間：1991年10月。

結果 同一表示サイズの既製衣料各部位の寸法はメーカーにより異なり、寸法差が大きい部位は、ゆき、ズボン丈、股下である。パターン形状の比較では、ニット上・下衣の形状は類似しており、サイズ「80」の方が顕著である。身体寸法との関係は、サイズ「80」の丈方向の差は少なく平均15%、最も差が大きいのは中ヒップ幅の平均55%であった。